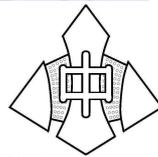


- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和3年12月17日(金)発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

手をたずさえて

私たちの《生きる》…感動のコラボ実現!! ～ 2年生6名による詩の群読と増田太郎さんのヴァイオリン演奏 ～

2016年、郡山市立日和田中学校の3年生が総合学習の成果をひとつの詩《生きる》にして、その詩(朗読)のイメージにぴったりの楽曲を増田太郎さんに作曲していただきました。それが、You Tubeでも視聴できる太郎さんの楽曲の「生きる」です。そして、2021年、本校60周年記念行事に増田太郎さんをお招きすることになり、詩《生きる》の小原田中バージョンを作ることにしました。2年生の国語科で“言葉を紡ぐ”という特別授業を伊藤久恵先生と私が行いました。谷川俊太郎さんの詩「生きる」をモチーフにして、2年生全員で《生きる》ことについて考え、その想いを言葉で表現しました。そして、それらの言葉を紡いで、2年生全体として《生きる》をひとつの詩のかたちになりました。まさに、私たちの《生きる》です。一つ一つの言葉に2年生の想いのこもったとても素敵な詩になりました。ライブでは、この詩《生きる》が2年生6名の群読と太郎さんの演奏とのコラボによって披露されました。感動したという多くの感想が寄せられました。

群読メンバーの感想

多くの人前に立って群読するのはとても緊張しました。けれど、一生に一度しかない機会を設けていただき、ありがとうございました。とてもいい経験になりました。テレビ局の取材で、「太郎さんの言葉で一番印象に残ったのは？」と聞かれ、「人生はどの道を行くかじゃなくて、今の道をどう生きるか」という言葉をあげました。僕はその言葉にとても感動し、これからの人生、今やっている部活の野球や勉強に全力で楽しく取り組みたいと思いました。(石森友悟)

太郎さんの言葉一つ一つに重みを感じました。特に「二通りの道でも、その先には何万通りもの道がある」というお話がとても心に響きました。僕はいつも選んだ道で失敗したら、「こっちを選べば良かった」などと後悔してばかりだったので、これからは太郎さんの言葉を頭に思い浮かべながら、たくさん道を歩いて行こうと思います。

(沼田拓実)

「こっちの選択肢に進んでしまってた良かったのか」とか、「こっちの方向に後悔や失敗があったらどうしよう…」とか、あらゆる選択肢が目の前に出てきた時に、私はいつも後悔や失敗を恐れてしまって、たまに前に進めないときがありました。でも、太郎さんの言葉を聞いて思いました。その後悔や失敗も含めて、すべて人生の一部にかわりはない、と。どんなに辛くても、どんなに苦しくても不思議なことに時間は進んでゆきます。だったら、その後悔も失敗も成長としてとらえれば良いと思ったのです。後悔してしまった過去は残念ながら変えることはできません。でも、この先進んでいく未来は変えることはできます。だから、失敗や後悔を活かすことはできると思ったのです。私が読んだ「生きているということ 何かに絶望した私の今日は 誰かが生きたいと願った明日かもしれないということ」。めちゃくちゃ納得して私が一番気に入ったところです。…太郎さんと「5回目の握手」ができることを楽しみにしています。(渡辺凜々)

群読をしている時は、正直楽しむぞ！って気持ちより、不安な気持ちの方が大きかったけど、太郎さんは群読メンバーに合わせてくれたり、自分の中で緊張してよく早くなるころも、本番前の“頑張ろうね！本番もよろしく”の一言で緊張も少し解け、自分の中でけっこう良い感じで詩を読むことができ、見に来ていた祖母や友だちを感動させることができました。心に残るライブになったし、めちゃくちゃ楽しかったです！(片桐侑美)



実際に太郎さんにお会いしてみると、とても優しく、目が見えないとは思えないほど元気で、自分に自信を持って生きているんだなと思いました。間近でヴァイオリンを聴いたときは迫力がすごく、とても感動しました。最高の経験をすることができました。(岡田陽真)

ライブの約一週間前に群読メンバーと顔を合わせ、初めて自分たち2年生が作った詩「生きる」を読みました。人のあたたかさ、部活などの学校での出来事や日々の楽しさなどが詰まっている詩なのかなと思いました。本格的に練習が始まり、最初は少し不安でした。自分はちゃんとできるのだろうか、本番緊張しすぎて練習したことを発揮できるのかと思っていました。先生に、私の読む所は同じクラスの子の文が入っているんだよと言われ、しっかりやらなきゃと思うことができました。本番前のリハーサルの時に、太郎さんが「遠くの人に届けるように笑顔で」と言うてくださり、本番前の自分に渴(かつ)を入れることができました。本番では、ほぼ緊張せず、練習以上によくできたと思います。(陰山杏莉)

生きる

生きているということ
いま生きているということ
今日もカーテンを開け 朝日を浴びるということ
じぶんも知らない 新しいじぶんに会おうということ
くつつもを 結びなおすということ
心の中のじぶんと向き合うということ
諦めなければ 人は変われるということ

生きているということ
それは疲れた私を迎える“おかえり”の声
イヤなことがあった日の温かいご飯
わがままなじぶんに向き合ってくれる父や母
いつもと変わらない家族の笑顔
人は人を愛し 愛されるということ

生きているということ
それは放射線と同じ 見えない敵と闘うということ
マスクをしなければいけないということ
大切な人に会えなくなるということ
あたり前が あたり前ではなくなった日常
それでもどんなに辛い時でも
また明日が来るということ
いのちの尊さを 心に刻むということ
いまを一生懸命に歩いていくということ

生きているということ
それは本気になれるものがあるということ
ともに汗を流す仲間がいるということ
笑い合い 支え合える仲間がいるということ
ぶつかり合うこと
意地を張ること
後悔すること
じぶんの弱さに気づくこと
涙を流し 本当の仲間になれるということ
そして 今日も“またね”と言えるということ

生きているということ
それはじぶんのために
本気になってくれる人がいるということ
何度も何度も叱ってくれるということ
見捨てないでいてくれるということ
大事に思っていてくれるということ
だからじぶんを見つめ直し
必ず成長してみせようと心に誓うこと

生きているということ
みんながひとつになったとき
いまが楽しいと思えること
みんながバラバラになったとき
いまが苦しいと思えること
壁を乗り越えるということ
全力で挑むということ
喜びも悲しみも分かち合えるということ
でも それは永遠ではないということ
いまこの瞬間が いつかの思い出になるということ

生きているということ
何かに絶望した私の今日は
誰かが生きたいと願った明日かもしれないということ
くじけそうなのは 前に進んでいる証拠
辛いのは 諦めていない証拠
だから私たちはどんなに失敗しても
必ず立ち上がれるということ
そして 生きることを意味を探し始めるということ

生きているということ
いま ここ じぶん を生きるということ
私たちは 世界でただ一人の
じぶんをつくっていく責任者であるということ
だから 生きる
感謝しながら
未来を想いながら
いま ここ じぶんを 生きる

